

オープン講演会

『天分を活かす ～働く×学ぶ×楽しむの一体化～』

講師：北村三郎氏（人と情報の研究所）

<http://www2.shizuokanet.ne.jp/sabu/index.html>

日時： 2010年4月16日 18:00～19:15

場所： 東京本社29階 コンファレンス

主催： 「私がやる！」プロジェクト 草の根リーダー塾

編集： 「私がやる！」プロジェクト事務局 鈴木崇之

<目次>

1. なぜ人間力か

- 1-1. 戦後教育： 偏差値エリートの大量発生
- 1-2. 企業戦士： 人間力より職業力が重視された高度成長時代
- 1-3. 左脳と右脳の関係： 論理脳と感性能
- 1-4. 右脳： 変化の時代に必要な創造性

2. 人間力とは

- 2-1. 職業力と人間力のバランス
- 2-2. 人間力を考える
- 2-3. 人間力の判別方法（3つ）
- 2-4. 人情の機微
- 2-5. 運がいい人
- 2-6. その他の人間力判別法

3. 心の成長と自己改革のワザ

- 3-1. 心の成長
- 3-2. 惰性の軌道から抜け出す
- 3-3. 意識改革の3つの方法

4. 五感塾： 気づく力・感じる力の体得

- 4-1. 試行錯誤から生まれた新しい研修のカタチ
- 4-2. 地域プロデューサー
- 4-3. 教わる力よりも学ぶ力
- 4-4. 他流試合・老若男女
- 4-5. 3つの最低限のマナー
- 4-5. 五感塾へようこそ

5. 好きなこと・やりたいこと・得意なことを、努力して、上手になって、人を喜ばせる

- 5-1. 人生の発芽・開花・結実
- 5-2. 人を喜ばせる
- 5-3. 仕事のテーマと人生のテーマ
- 5-4. 定年後と人生のテーマ
- 5-5. ゴールデンエイジと人生のテーマ探し

6. 働く(work)×学ぶ(learn)×楽しむ(enjoy)=天分

- 6-1. 3つの一体化
- 6-2. 24時間・365日・年中無休で考える
- 6-3. 天分： 30年構想で満開・結実へ

■講演スタート

「天分を活かす」。私は、この考え方がこれからの時代に大きな意味を持つようになってくるとみています。本日は、この「天分を活かす」をキーワードに、「働く×学ぶ×楽しむの一体化」というお話をさせていただきます。

1. なぜ人間力か

1-1. 戦後教育： 偏差値エリートの大量発生

昭和20年に日本は敗戦。どん底に落ちた敗戦国を復興させるために、国民が一丸となって日本を再建してきました。私は食べるものがない時のことも、よく覚えています。そんな時代の中で、ある種の教育が行われてきました。文部省が強化した教育について、私はこのようにとらえております。「あらかじめ決められている正解を早く見つける能力」と。

この教育観に従って、育ちざかりの中学・高校時代に塾などに行き、一生懸命に暗記して、スピーディーに、正解率高く解答を導き出す力をつける。早稲田大学を出ていすゞ自動車に入った私も含めて、私たちはこのような勉強法をトレーニングしてきました。その結果、「あらかじめ決められている正解を早く見つける能力」に長けた人たちが、いい学校に入り、いい会社に入る。このような社会の中で、「偏差値エリート」が大量に発生しました。

1-2. 企業戦士： 人間力より職業力が重視された高度成長時代

戦後の教育観のもう一つの特徴は「人間の画一化」。金太郎飴、ダイバーシティ（多様性）の逆です。人間の画一化は人間の「部品化」に繋がります。私は現在73歳、大手自動車メーカーに永年勤めた企業戦士の残党・生き残りですが、高度成長時代の企業戦士、つまり兵隊は、個性が違ったり、いろいろ人がいると困ったのです。上からの指示命令をきちっと遂行する歯車のような人たちが必要でした。いまでこそ人間力という言葉がクローズアップされていますが、私の現役時代には、人間力よりも職業力が非常に評価されてい

たのです。

もちろん、会社に勤めている以上、職業力は重要です。それぞれの専門性をしっかり体得していかななくては成果につながりません。しかし一方で、より大きな成果を生むためのリーダーシップやフォロワーシップの根っこにある人間力を開発することは、残念ながらおろそかにされた、と私はみているのです。

1-3. 左脳と右脳の関係： 論理脳と感性能

ところで、ここ数十年の間に脳の研究が急速に発達し、さまざまなことが明らかになりました。最近では茂木健一郎さん（注：脳科学者）※リンクがよく引き合いに出すように、人間の左脳と右脳にはそれぞれの役割があるようです。脳の研究によれば、左脳は論理脳で、理屈など論理を構成する脳。右脳は感性脳で、感じる力の脳ということになります。

※<http://www.kenmogi.cocolog-nifty.com/qualia/>

現代の企業人は「左脳肥大」かも知れません。左脳肥大とは、大脳新皮質におきるものです。大脳新皮質は新しい脳とも言われていますが、論理化・言語化・体系化・抽象化などを司ります。企業人には、この能力を高度に求められる場面が極めてたくさんありますね。

そして、「右脳縮小」。右脳縮小とは、大脳辺縁系の問題です。大脳辺縁系は古い脳と呼ばれていますが、古い脳は直感・良心・ひらめき・わくわく・楽しいという感覚、すなわち五感感覚を司ります。現代の企業人である皆さんは、このような直感・良心・ひらめき・わくわく・楽しいという感覚をもって仕事していませんか。もしできていなければ、右脳縮小になっているかも知れませんから要注意です。

1-4. 右脳： 変化の時代に必要な創造性

私たちは、左脳と右脳のバランスも取っていきわけです。ところが、一般的なビジネスの場面では左脳ばかりトレーニングしますから、右脳の活性化が疎かになりがちです。私は現代人は右脳が充分機能していないとみています。いまのような変化の時代には、ビジネスの面でもクリエイティビティー（創造性）や直観がこれまで以上に重要になっています。組織としての右脳縮小は、企業にとって致命的になるかも知れません。

創造性はさまざまな「組み合わせ」の中で高められる面がありますから、創造性豊かになるためにはいろいろな人がいたほうがいいのです。似たタイプの集団ではなく、いろいろな考え方やアイデアが飛び交って、その組み合わせによって新しいものが創造される会社にしていくことが必要なのです。帝人さんもダイバーシティ（多様性）を推進していますね。多様性という観点でも、今後ますます右脳の機能の高い人が重宝されると思います。

2. 人間力とは

2-1. 職業力と人間力のバランス

私は大企業の中で教育課長や教育部長を経験しました。戦後の日本企業では、課長に昇進したら課長研修、部長であれば部長研修といったように、なるべく同じような考え方・行動をするよう、何世代にもわたって教育してきました。こうした経験を踏まえて私なりに考え続けてきた「職業力と人間力のバランス」という問題についてお話します。

まず、職業力とは何でしょうか。私の考えでは、業務に関する知識、技能、マネジメント力やリーダーシップなどの能力のことです。

一方、これまで疎かにされてきた人間力とは何でしょうか。私の考えでは、大きくは、人柄や人間性、人間的な魅力というものを人間力と呼びます。これまでは、「人柄が良くて仕事ができなきゃ意味がない……」という声に負けて、人間力に重きを置いて自分自身を育てていく発想が疎かにされてきたように思います。これからの時代にも職業力はもちろん大事ですが、グローバルな大競争の中で、たくさんの人を巻き込みながら大きな成果を生み出すために、もっともっと人間力を育てていかなければならない時期にきているのではないのでしょうか。

2-2. 人間力を考える

人間力とは何かについて、少し深く考えてみましょう。私は、ここでバランスという言葉を使ってみます。

2-2-1. 「右脳」と「左脳」のバランス

まずは、脳の使い方のバランス。右脳と左脳の2つの脳をバランスよく発揮できている人は、結果的に人間力のある人として映ると思います。

2-2-2. 「知育」「体育」「徳育」のバランス

次に、教育のバランス。教育には知育・体育・徳育があります。知育は頭、体育は体、徳育は心です。いま一番失われているのは徳育でしょう。戦後教育には、徳育、心の教育、修身の学科がありましたが、現代ではほとんどなくなりました。「人徳」という言葉がありますが、頭だけがよくても徳のない人間には、人は心からついていこうという気持ちにはなりにくいでしょう。

2-2-3. 「情」と「理」のバランス

心のバランス。情と理ですね。「情理兼ね備える」という言葉があります。「理」は左脳の

論理、右脳は「情緒」、このバランスが欠けていると感じます。何でも合理的に、理屈に合うように考えよう、という傾向が強いように思えます。これからの時代、そして人間社会を考えると「情」も大切。親子の愛情、上司と部下の間に流れる感情。情の通い合いがとても大事です。

2-2-4. 「自他」と「利他」のバランス

人間関係のバランス。「自利」「利他」という言葉を聞いたことはありますか。「自利」は自分の幸せ、自分の利益。「利他」は周りにいる人たちが豊かになる、幸せになるという考え方です。これもバランスですね。人間は基本的には、自分のことを考えて生きていると思います。でももう一つ、本当に自分が幸せになるためには、周りが幸せにならないと自分も幸せになれないという原則もあるのですね。

2-2-5. 「長期」と「短期」のバランス

時間間隔のバランス。長期と短期というバランス感覚も必要です。たとえば短期の数字を達成することも大事ですが、10年後、20年後の会社はどうあるべきかを考えるのも大事です。企業活動でも、どちらも疎かにできません。

2-2-6. 「理論」と「実践」のバランス

行動のバランス。理論と実践のバランス感覚です。この風土改革にも理論がありません。しかし理論だけを勉強しても変化は起こせません。やはり自分なりに理論から得たものを実践してみなければなりません。また、実践で得たものを理論としてまとめていく能力がなければ、広がりをつくっていくことはできません。

2-2-7. 「理念」と「業績」のバランス

経営のバランス。渋沢栄一曰く「論語と算盤」。ビジネスは算盤のほうです。利益が出なければ企業として持続できません。しかし利益が出ていれば充分というわけではありません。よい会社というものは、社会に貢献していたり、社員が心豊かであったりします。

2-2-8. 「理想」と「現実」のバランス

視座のバランス。理想と現実のことです。やはり夢や希望、目標などの理想がなければいい仕事はできません。高い志を掲げましょう。とはいえ、単なるドリーマーでは人はついてきてくれません。現実、つまり自分の足元を直視する、現実にも立脚して理想を追求する、このバランス感覚がとても大事です。理想主義だけでは誇大妄想的になりますし、現実主義だけでは視野が狭くなったり活力がなくなったりします。理想と現実を行ったりきたりしながら、いずれ現実を理想に近づいていく力。これも人間力です。

このように、バランス感覚のある人は、一般的に人間力は高いと考えていいでしょう。

2-3. 人間力の判別方法（3つ）

人間力を判別する別の見方が3つあります。

1つ目は、「天分を活かす」です。天分については後ほど詳しく説明します（※15頁へ）。

2つ目は、「人情の機微がわかる」。今は人間関係が希薄になっています。社会は「共同体」という側面がありますが、共同体機能が地方や田舎でも失われつつあります。人間関係がとても寂しいものになっています。人情の機微はもともと日本人がもっていた性質ですが、どんどん失われつつあります。

3つ目は、「運がいい」。さまざまな運の研究が行われていますが、運がいいというのは「人情の機微」と同様、会社の研修では教えないし、学校教育でも教えません。

2-4. 人情の機微

「人情の機微」について、私がどのような方法で教えたり、自分で学んだりしているかお話しします。まず、人情の機微は研修で身につくものではありません。また、本を読んでわかるものでもありません。そこで私は、日本の伝統でもある落語、講談、あるいは日本の武道……そういったものを通じて身につくのではないかと考えています。

2-4-1. 落語のススメ

私は学生時代から（古今亭）志ん生や（柳家）小さんのファンだった落語好きです。人形町の末広亭で落語を楽しんできたのですが、現在でも国立演芸場など寄席に足を運んでいます。鈴本とか末広亭の落語では、トリの人で20分。大勢が出演するからです。そういった落語ですと短い時間なのでただのお笑いに近いのですが、本物の落語は独演会がいいですね。非常にいい古典落語をやっています。日本には、伝統的に400ほどの古典落語がありますが、そのうち200くらいの噺（はなし）ができないと真打になれないので、とても稽古しなければならない。それらには人情の機微、笑いの中に何か心温まるようなものが含まれています。昔の人たちは、このようなもの聴きながら、生活の中で人情を身につけていった。

このような世界に興味を持つことも大事です。昨年は、長野県小布施町で五感塾のフォーラム（※リンク）を開催した時には、落語から人情の機微を学ぶという内容がありました。

※<http://www2.shizuokanet.ne.jp/sabu/back/090815.html>

2-4-2. もったいない

人情の機微を表すいろいろな言葉がありますが「もったいない」もそのひとつ。アフリカにマータイさんという人がいて、それは『モッタイナイで地球は緑になる』という本になった。「もったいない」という日本の文化が素晴らしいと絶賛してくださいました。

2-4-3. おかげさま・向こう三軒両隣

「おかげさま」もそうですね。自分だけで生きているのではなく、色んな人が支えてくれる陰で存在している。それがわかっているのと、わかっていないのとでは全然生き方が違ってきます。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉もあります。自分ひとりで生きてきたのではなく、みんなに生かされてきたんだ、この感覚がすごく大事です。

地域では、向こう三軒両隣。今マンションで誰が隣に住んでいるのかわからない。特に都会では、挨拶すらしないところもありますね。非常に寂しい状態になっています。昔は、向こう三軒両隣ではみんな助け合っていました。よく話もしていました。

2-4-4. お天道様はみてる

「お天道様はみてる」という言葉もあります。お天道様は太陽のことですが、「何か悪いことをしていても誰かが見ているという感覚。「みっともない」ということばもありますね。

こういった心の働きが「人情の機微」なのです。これら子供たちにもしっかりと教えないといけません。

2-5. 運がいい人

先ほど、人間力の判断材料の3つ目に「運がいい」をあげました。経営の神様と言われる松下幸之助さん※リンクは、自分の会社の役員を決める時にどういう基準で決めたのでしょうか。単に業績を上げた、売上げをアップさせた、だから役員になるというわけではありませんでした。人望もあり尊敬もされている人を役員にしたのです。さらに、もう一つ非常に重要視したものが 있습니다。それは運がいい人。ある人がこう質問しました。「幸之助さん、運のいい人ってどう見分けるんですか？」と。すると、幸之助さん曰く「自分は運がいいと信じ込んでいる人だ」と答えたそうです。

※リンク：<http://panasonic.co.jp/founder/>

2-6. その他の人間力判別法

ご参考までに、「天分を活かす」「人情の機微がわかる」「運がいい」の3つのほかにも、人間力を判別する方法をあげます。

2-6-1. その他の人間力判別法①： 笑顔と謙虚

「笑顔のいい人」「威張っていない人」。(会場の参加者を指して) 男性でも笑顔はとても大事です。私はある機会に、幸運の女神様は笑顔と謙虚さのある人が好きだということを知ってから、一生懸命笑顔を練習しました。かつて、私は鬼部長といますか、すごく怖かったのです。業績を上げるために脅かして、権力で人を使っていました。部下を震え上がらせることもありましたが、おっかない顔をしていました。しかし、その話を聞いたときに、自分自身を変えなければならない、優しい顔にならなければならないと感じたのです。それからは鏡を見ながら努力して、最近は少し笑顔ができるようになりました。笑顔の少ない人は、顔の筋肉が硬直しているために時間がかかります。筋肉を柔らかくして笑顔をつくりましょう。笑顔と謙虚、いつもしかめっ面で威張っている人の傍には寄りたくないというのが正直な気持ちではないでしょうか。

2-6-2. その他の人間力判別法②： 常識そのものを見直せる人

人間力を体得するための考え方として「常識そのものを見直してみる」ことを申し上げたいです。私は常識を見直している人を研究しています。

たとえば松平健です。彼は「暴れん坊将軍」を 25 年やりました。いわゆる侍モノですね。もともと彼はすごく研究熱心で、ジャズや西洋音楽もとても上手い。「マイウェイ」なんかを歌わせたらすごい。ダンスもとても上手です。芸能に関することであれば、「自分は侍をやっているから」と狭い世界に閉じこもることなく、いろんな芸を研究しています。松健サンバでは、キンキラの着物を着ながら踊る。後ろに出てくる女性が、かたやサンバの格好、かたや着物を着た人のような、非常に面白いステージです。それは全部、彼が「常識」を見直したからできたことだと思います。

2-6-3. その他の人間力判別法③： トボケられる人

ゲゲゲの鬼太郎を描いた、87 歳になる水木しげる。普通は幽霊は怖いから避ける。でも、だからこそ幽霊を漫画化した。これも常識を見直したからですね。そして、水木しげるという人はものすごいトボケで、それが絶妙な魅力になっている。今みなさんは、ガンガンやってると思いますが、私はもうそろそろトボケの研究をしないといけない年代に入っていると思います。トボケはすごく大事です、特にリーダーには。このような点でも常識そのものを見直してみましよう。

3. 心の成長と自己改革のワザ

3-1. 心の成長

私たちは心と体の両面で成長します。体の成長はだいたい20歳くらいまで。脳が大きくなり体が大きくなるのは20歳まで。生命論的にいうと、生物は成長期の5倍ほど生きられるそうです。そうしますと、基本的に人間は100歳までは生きられることとなります。

今日ここでお伝えしたいことは、肉体的な成長だけではなく、心や精神や知の成長はずっと右肩上がりで行けるのではないかということです。私は73歳ですが、去年より少し成長している気がするのです。毎年新しい発見に出会いますし、一昨年より去年のほうが間違いなく良くなりました。知的・精神的に、つまり心はずっと成長できると考えて生きていく、そういった感覚が大事です。

3-2. 惰性の軌道から抜け出す

ところが、人間の脳ほとんど開発されていない状態で人生が終わることが多いそうです。私は「惰性の軌道」といいますが、35歳くらいになると、知的・精神的にも「惰性の軌道」に入ってしまいます。放っておくと人間的な成長が止まるというイメージです。ですから私たちは、惰性の軌道から抜け出してさらに上昇気流に乗っていきたい。それが、自分の才能、つまり「天分」が活かせることになるのです。自分の可能性をできるだけ開発して、開花、それも満開にして、最後には結実させたい。ぜひこのことを意識してほしいです。

3-3. 意識改革の3つの方法

「惰性の軌道」からどうやって脱出するか。そのためには自己改革、すなわち自分で前向きに意識改革を繰り返していくことが必要となります。私の長年の研究と体験から、意識改革の方法は3つあると考えています。

3-3-1. 意識改革の方法①：異体験（新しい体験）

意識改革の最初の方法は「異体験」です。「惰性の軌道」に入ると、生活の中で同じところを動いています。パターン化してきます。それを意識して変えて、いろいろなところへ行ったり、いろいろな人に会うことをします。新しい体験を習慣化することが大事だからです。異体験には「日常の異体験」と「非日常の異体験」がありますが、私は日常の中で異体験をする習慣をつけると思っています。平凡な毎日の中で、例えば、少しだけ道を変えてみる。そして、新しい風景を見る。ちなみに、非日常の異体験とは、たとえば旅行ですね。全く違うところへ行く。私は最貧国のバングラデシュとかインドなどへも行きましたが、全く価値観が変わることがあります。もしそこにいい価値観があれば、自分の中に取り入れていくというスタンスです。

3-3-2. 意識改革の方法②： 自己開示（セルフ・ディスクロージャー）

「自己開示」は英語でセルフ・ディスクロージャーといいます。昨日の草の根リーダー塾でも実施しておりました。まず自分の心を開く。自分が心を開くから、相手も心を開く。商品の陳列でいう「先出し後入れ」です。自分が心を開きおいて、相手から心を開いてくれるわけではありません。特に自分の弱みを見せられる力、これが自己開示力です。会社の中では大なり小なり心を開きおいて生活していますから、自分を出せることはとてもパワフルな意識改革のワザ（技）になります。自己開示を体得すると、いい人間関係をつくりやすくなります。

3-3-3. 意識改革の方法③： 内観（自分の内面と向き合う）

次に「内観」です。異体験は自分の外側にあるものと向き合うことですが、内観は自分の内側と向き合うことです。具体的には、自分の歴史を振り返ること。人間には必ず過去・現在・未来があります。過去には色々な原風景や原体験があり、その延長戦上に今の自分があります。こうした過去の出来事をしっかり棚卸しして、今の自分は、このような歴史があつてこそ存在しているのだと感じてください。国家もそうですよね、歴史があつて今の日本という国が存在しています。そのように考えていきますと、自分も歴史の流れの上であり、人に助けられ、そしていまここにいるのだと気づきます。そのうえで未来に思いを馳せる。これからの未来をどう生きていくかを考える。このように、内観もとても重要なワザです。

4. 五感塾： 気づく力・感じる力の体得

いよいよ五感塾についてお話します。五感塾は「気づく・感じる力の体得」を目的に行われてきたものです。テーマは「地域に伝わる文化、一隅を照らす人から学ぶ」。意識改革という点では、五感塾は①異体験、②自己開示、③内観の3つが詰まった研修の場になります。

4-1. 試行錯誤から生まれた新しい研修のカタチ

私は、先ほどお話した右脳の開発という問題意識から、さまざまな試行錯誤を重ねてきました。大学の専攻を含めて教育に50年携わり、私なりに辿り着いたことを五感塾で実践しています。

日本は本当に広い。皆さま、奄美大島へ行ったことはありますか？ 沖縄の東村はいかがですか？ 宮里藍選手の故郷です。その他、いろいろな場所がありますね。日本には各地に文化があり、「一隅を照らす」すばらしい人がいます。そういった人たちはほとんど有名ではありません。無名ではあるけれど、その地域のために一生懸命働く人がいます。尊敬されている人がいます。そういう人を自分たちで発見して、学ぶ場をつくるのが五感塾、五感を磨く研修です。

4-2. 地域プロデューサー

五感塾では、現地の「地域プロデューサー」と連携します。帝人グループ発祥の地である米沢では、山崎洋一郎さん（財米沢工業会）（※リンク）がプロデューサーです。今年の夏、再び米沢にいきますね。山崎さんがさまざまアレンジしてくださいます。鹿児島県には奄美大島の地域プロデューサーがいますし、新潟県には佐渡、島根県隠岐諸島には海士町（※リンク）、徳島県には阿南市、それぞれの地域に個性的なプロデューサーがいます。企業を中心とした主催者側と、地域でネットワークをもっているプロデューサーが連携して学ぶ場をつくる、そんな運営をしています。費用は、私を含めて参加者の割り勘です。研修会社のように、誰かが収益を上げることを考えておりません。

※<http://ykkyy.exblog.jp/9996856/>

※※<http://www.megurinowa.jp/gokanjuku/>

4-3. 教わる力よりも学ぶ力

五感塾では、「教わる力」よりも「学ぶ力」を重要視しています。教わる世界では、そこに必ず先生と生徒ができます。ところが、人生のうちで先生がいる期間は短いのです。学校や研修くらいでしょうか。人生のほとんどの期間は先生不在、つまり、全て自分次第です。ですから、自分がいろいろなことを見たり聞いたりする中で何かを掴む力、つまり学ぶ力

を体得したらしめたものですね。

松下政経塾（※リンク）には、「万事研修」「我以外みな我が師」「自習自得」「切磋琢磨」という言葉があります。日常のどんな事象からでも学ぶことはできるという意味だと思えます。こうした学ぶ力をつけることが五感塾の特徴です。

※<http://www.mskj.or.jp/>

準備・本番・後始末の全プロセスも体験します。普通は主催者が全部お膳立てして、それにお客さんとして参加する。この草の根リーダー塾もそうですが、全プロセスをみんなの力でやるのが大事です。

4-4. 他流試合・老若男女

また、五感塾では、複数の企業・組織が参加する他流試合になります。企業はタコ壺のようなものですから、どうしても同じような価値観の人が多くなりがちです。一方、他流試合になりますと他の組織の方が参加します。自分の組織とは違う感覚が刺激になる。ほどよい緊張感が生まれたり、自分の会社を上手にアピールしたり。

最近では、老若男女での参加、特に子どもさんとの参加を推奨しています。一昨年、徳島で帝人さんが主催した阿波五感塾（※リンク）では、豊嶋豊和さんは奥さまとお嬢さんを連れてこられました。米沢五感塾（※※リンク）にも、鈴木崇之さんがご両親を連れてこられたり、上田仁志さんがお母さまとお嬢さまの三世代で参加されたりしました。人間は子供をみるととても優しくなるのですね。心が優しくなる。そしてみんなで子供の面倒をみてあげる中で、会社の中で失われていた優しさが蘇ってきたり、思いもよらない気づきがあったりします。家族と五感塾に参加することは、家族の歴史の中で大きな出来事になり得ますから、とてもいいことだと奨励しています。

※<http://www2.shizuokanet.ne.jp/sabu/back/080901.html>

※※<http://www2.shizuokanet.ne.jp/sabu/back/081101.html>

4-5. 3つの最低限のマナー

学びの多い研修にするために、塾生に求める最低限のマナーが3つあります。

4-5-1. マナー①： 傾聴（人の話を聴く姿勢）

1つは人の話を聞く姿勢です。先程お話ししましたが、実は、人間力を一番手っ取り早く判断できる材料は、人の話を聴く姿勢です。話す力はテクニックでカバーできますが、人の話を聴く力は人間力の比重が高くなります。たとえば座り方。背筋が伸びているか、ふんぞり返っていないか、足を投げ出していないか、横の人としゃべっていないか、メモをと

っているか、眠っていないかなどなど、座り方や聴く力は人間力の反映、人間力の鏡なのですね。

4-5-2. マナー②： 清掃（後片付け）

2つ目に、場を汚さないこと。私たちはいろいろ場所に行きますが、参加者たちが帰ったあとがポイントです。帰った後に、「今回の集団はゴミをいっぱい散らかしていったな」という印象を残すのは非常に良くないわけです。次回の訪問のことも考えて、来たとき以上の美しくしていく。つまり、みんなできちんと後片付けをします。

4-5-3. マナー③： 挨拶（気持ちよく）

3つ目は、気持ちの良い挨拶です。人さまのところにおじゃまするわけですし、参加者にも他社や子供さんがいますから、誰に対しても気軽に、気持ちのよい挨拶ができることが必須です。いい挨拶ができないと、人とのいい関係は生まれません。

4-5. 五感塾へようこそ

私のホームページ（※リンク）にも五感塾というコーナーがあり、オープンに公開しています。今度はある組織が筑波山五感塾を開催します。私のホームページで案内しますから、どうぞみなさんご覧ください。たった1日の五感塾もありますし、1泊2日のものもあります。いずれにしても、これまで出会ったことのない人と出会い、対話をしていく中で、必ず五感（気づく力・感じる力）は高まっていきます。

※<http://www2.shizuokanet.ne.jp/sabu/index.html>

この写真は2008年に米沢五感塾を開催したときのものですが、皆さん素晴らしい笑顔ですね。五感塾は面白い「学習の缶詰」になっていますから、ぜひ皆さんお誘い合わせのうえ、米沢五感塾にも参加してみてください。

5. 好きなこと・やりたいこと・得意なことを、努力して、上手になって、人を喜ばせる

5-1. 人生の発芽・開花・結実

「人生の発芽」とは何でしょう。人間は、親から生まれて、発芽、そして成長し、開花します。開花するのがいつ頃かは分かりません。10代の人もいれば、20代もいます。40~50代で開花する人もいます。いずれにしても、最後は必ず実を結んで朽ちる。次世代への種を残す。大切なことは、その全プロセスを楽しむことだと思います。私たちビジネスパーソンの世界では、結実は定年後に来るかもしれません。そこまで長期的に視野に入れながら、自分自身を自分で育てていくことが大事なのではないかとみているわけです。

5-2. 人を喜ばせる

人間には「好きなこと」「やりたいこと」「得意なこと」があります。それを「努力して」「上手になって」・・・この最後が大事です・・・「人を喜ばせること」ですね。このキーワードは非常に重要です。人間の幸せというものは、「好きなこと」「やりたいこと」「得意なこと」を見つけて、それらを通じて人を幸せにするのが一番の幸せではないでしょうか。

私自身は、組織風土改革というテーマを見つけてずっと活動してきました。世の中の人の役に立ちたいと思って、73歳になっても働いています。

「私がやる！」という気持ちでここにいらっしゃる皆さんは、ぜひ「人を喜ばせる」を頭に入れて、子どもや後輩といった次世代を育てる時にも大切にしたいと思っています。

5-3. 仕事のテーマと人生のテーマ

「人生劇場」という言葉があります。歌手・村田英雄の歌の名前にもなりましたし、尾崎士郎がこれをタイトルにして本を書いています。人生の幕が開き、そしてある時には幕が閉じる。閉幕は確実なことです。一回限りの人生劇場におけるテーマ……どんな小説でも作品でも、作家はテーマを決めています。音楽でもベートーベンの「運命」といったテーマがあります。

少なくとも「仕事のテーマ」は持っていないと、自分が困ることになります。たとえば、会社の命令であちこち人事異動し、いつも与えられた業務をこなすだけの人生では、とても空しいと思います。ですから、何か一つテーマをもつこと。「この世界で自分はプロフェッショナルになるんだ」という風に。その専門性で、社会や会社に貢献していく。会社は「貢献なくして報酬なし」が基本ですから、皆さんの得意な専門性をもって貢献していかなければならない。特に若い時は、何だかんだと目先の業務に関する職業力を高めなければなりません。20代・30代・40代と徐々に専門性を高め、部下をしっかりと指導でき

るだけの職業力を持って欲しいです。

ところが、60 歳くらいで必ず定年がやってきます。仕事のテーマの閉幕です。しかし平均寿命が延びてきました。かつては退職金がなくなるころにご臨終になりましたが、今はそうはいきません。しかも年金も退職金もあるのかどうかわからないという状況になっています。それでも会社は一定の年齢になれば退職しなければならない。八百屋や魚屋などの自営業や芸術家などは死ぬまで働けるかもしれませんが、サラリーマンは定年という定めをもっている。この点はしっかり自覚をしておいたほうがいいでしょう。

5-4. 定年後と人生のテーマ

長い目で人生を考えると、仕事のテーマだけでは、定年後に非常に寂しい思いをすることになります。私はそのような人をたくさんみてきました。「私は会社で隆々たる権限を持っていた」「地位があった」…そんな人ほど、定年になったとたん腑抜けのようになってしまう。そして、なぜか蕎麦打ちとか、陶芸とか、そういう「趣味」に走るのですね、たいてい。

私が強調したいことは、自分が何によって社会の役に立てるのかを発見しようということです。最初は仕事のテーマだけかまいませんが、やはりいつか「人生のテーマ」を探したい。本当に自分が好きなことは何なのか、やりたいことは何なのか、得意なことは何なのか、10年・20年・30年かかっても、会社を定年になっても自分が追求し続けることは何なのかを見つけられた人のほうが、幸せ度は高いと思います。

私の場合は、組織風土改革という人生のテーマが見つかってから30年を超えました。どんなことであれ、30年継続すれば、その世界のトップクラスに到達することができるはずだと信じてやってきました。

5-5. ゴールデンエイジと人生のテーマ探し

皆さん、「ゴールデンエイジ」という言葉をご存じでしょうか？ 9歳から12歳の期間のこと指します。子どもの将来性はこの年齢で決まると言う人もいます。ですからお父さんお母さんは、この期間にいろいろなことを経験させてください。「これだっただけでできる」ということを発見してあげてください。実際には、「お父さんから“やれっ”ていわれてるから」「なんとなくやる」という姿勢のため、途中であきらめてしまうお子さんが多いかも知れません。

いろいろなことをやらせていくうちに、「これなら一生懸命やれる」と思えるものができてきます。これが「天分」なのですね。ゴールデンエイジで見つけると、能力が高い

人は天分を早く開花させることができます。例えばイチロー。彼はすごく運がいい。亡くなった仰木監督に見出されました。盲目のピアニスト辻井伸行さんの活躍を見ていても、天分を見つけられるように親が協力することはとっても大事だと気づきます。

私たちはビジネスの世界にいる人間で、もしかするとゴールデンエイジに天分は見つからなかったかも知れませんが、20代・30代をかけて発見しても遅くないはずです。まず仕事のテーマをみつけて、それを軸に人生のテーマ探しをする。そして40代から50代をかけて人生のテーマに膨らませていき、そのテーマに沿って自分自身の能力開発をする。年齢を重ねてからあわててやるのではなく、今から準備開始するということをオススメしたいです。

6. 働く(work)×学ぶ(learn)×楽しむ(enjoy)=天分

6-1. 3つの一体化

さて、最後に、働く(work)、学ぶ(learn)、そして楽しむ(enjoy)についてお話します。

いまの社会はこの3つが分離されているように見えます。会社は働くところ、学ぶのは研修や学校で、楽しむのはアフター5や土日だけ、といったように。私は3つを分離すること自体が問題だと思っていて、人生の中でなるべく重ね合わせていきたいと思うのです。楽しく働く、楽しく学ぶ。働く楽しみ、学ぶ楽しみ。広く日本を探せば、そういった方針で経営している会社はたくさんありますし、五感塾ではその社長さんや社員の方にお話を聞いたりしています。

私はこの年(73歳)になって、働く×学ぶ×楽しむが完全に一致してきました。たとえば今日は、『仕事だから』来ているわけではないのです。皆さんとこうしてお話できることを楽しんでます。若い人とお付き合いできることほど楽しいことはないです。それから、皆さんのお話からたくさんのことを学んでいます。「こういう風に考えるのか」「こういう人がいるのだ」と。皆さんからたくさんのこと学んで、自分自身の栄養・糧になっています。その積み重ねで、こうして仕事ができています。皆さんとお会いできる「現場」をもっていなければ、(現役を引退したはずの)私に対して、あちこちからお声はかからないと思っていますから、いろいろな「現場」をもっていきたいと思います。

6-2. 24時間・365日・年中無休で考える

「寝ても覚めても」という言葉がありますね。働く×学ぶ×楽しむが一体化してきますと、24時間稼働できるようになります。24時間といっても8時間くらいは寝ているではないかと思われるかもしれませんが、実は、本当に好きなことや楽しいことについては、脳はいつも考えているのです。ありがたいことに、嫌なことは忘れられます。

人間の心には顕在意識と潜在意識がありますが、もっとこうしたいな、ああしたいなと考えていますと、その無意識の世界が活性化します。それは睡眠中のことですね。潜在意識が活性化するにしたがって、意識への顕在化が進み、顕在意識が活性化します。

昼間、いろいろなことをああでもないこうでもないと考えて、どうしたらいいかな、さらに良くするにはどうしようかなと考えていますと、睡眠中に脳が活性化します。寝ている間に、脳は自動的にいろいろアイデアを繋げてくれます。

目が覚めている時は覚醒しているわけですが、睡眠と覚醒の間にすき間があります。夜から朝になる手前の朝焼け、昼から夜になる手前の夕暮れのような時間帯があります。人

間では、寝ているのか起きているのかわからない状況は、朝方に発生します。(脳科学者の)茂木健一郎さんも言っていますが、枕元にメモを置く人は多いようです。この寝ているのか起きているのかわからない時間帯にふっとひらめく、さっとメモする、面白いアイデアが手元に残る。睡眠時の潜在意識の中から、思いがけないアイデアが出てくるのですね。完全に覚醒しますと、「さっきいいことを思いついたのだけど忘れちゃった」みたいになってしまいます。

ですからこの夢想状態、夜明け前を有効に使いたいのです。そういう意味で24時間脳は動いていますし、働く×学ぶ×楽しむが一体化していれば、活性化した脳になりやすいはずですよ。

6-3. 天分： 30年構想で満開・結実へ

「年中無休」について。お正月であろうが休日であろうが、考えを巡らせながらも、楽しめるからいいわけです。考えること自体も楽しいという世界。そして私は、30年考え続けようといいたいわけです。30年続ければ、どんな世界であれ、誰でもトップクラスに到達できます。徐々に人生のテーマを絞りこんでいって、軸として定めた道をコツコツ追求していけば可能です。30年継続すれば、しっかり世の中のお役に立てる、人に喜んでいただくことができると思います。

もちろん、ある種天才的な人はもっと早くにトップクラスに行けるとは思いますが、もし私たちが普通の人間であるとすれば、普通の人間なりにトップクラスに到達するための作戦がいると思います。それが「30年構想」。30年あれば専門性が高まり、その人しかできない独創的なことが形になってきて、満開・結実に近づいてくるイメージです。これが天分ではないでしょうか。

働く×学ぶ×楽しむを一体化させながら、仕事のテーマを軸に人生のテーマに膨らませていきましょう。仕事のテーマと人生のテーマを分離しない。働く時間、学ぶ時間、楽しむ時間を分離しないことです。いまは分かれていても、徐々に重なる領域を増やしていく。そして私ぐらいの年になったときに完全に一致させる。そういう人生になっていけばいいのではないかと思います。

以上になりますが、私の長年の経験からお話させていただきました。皆さんのお役に立てば嬉しいです。ご静聴ありがとうございました。

=以上=